

国との連携の推進

自衛隊福岡地方協力本部から感謝状受領

2月28日(月)、自衛隊福岡地方協力本部の平松良一本部長が市役所を訪問され、自衛隊の任務の重要性を深く認識し、防衛基盤の育成に尽力したことと自衛隊員募集業務への多大な貢献などを称え、本市に感謝状を贈呈されました。防衛大臣政務官の経験もあり、自衛隊との連携強化を特に図ってきた楠田市長は、大変光栄なことと御礼を述べました。



感謝状授受式の様子

官民連携の推進

市民の森に案内看板などを設置

まちづくりビジョン官民連携の推進に則り包括連携協定を結んでいるエフコープ生活協同組合と連携し、市民の森に四季折々の魅力を紹介した案内看板や、植物や昆虫などを観察できるルーペ付きオブジェを設置しました。

市民の森は自然が多く残る史跡地で、季節ごとにさまざまな表情を見せる生き物が暮らしています。ぜひ市民の森を訪れ、隅々まで楽しんで歩き回ってください。心も体も健康になるとともに、新しい発見やワクワクする出会いが待っているかもしれません。



案内看板(左)にルーペなどの設置場所が書かれています。

太宰府梅プロジェクト

梅の新作ショコラ完成

本場パリで日本人女性初のショコラ専門店をオープンさせた佐野恵美子さんが、バレンタインデー前に帰国し、太宰府の梅入りショコラの完成を2月1日(火)、楠田市長に報告しました。

材料の梅は本市の史跡地に生育する梅で、福岡農業高校の生徒の皆さんが収穫・加工し提供しました。佐野さんの父にあたる、福岡市の老舗洋菓子店・チョコレートショップの佐野隆社長も、昨年からは福岡農業高校の生徒の皆さんとコラボされており、親子2代で太宰府の梅を使ったショコラを作っていたいただきました。

「素晴らしい太宰府の梅ショコラに仕上がっており、パリでも好評です」と報告していただきました。



佐野さん親子と楠田市長

まちのトピックス

令和の都太宰府 聖花でつなぐ25周年 大宰府万葉「梅花の宴」開催

2月12日(土)大宰府万葉会25周年を記念して、令和の典拠となった「梅花の宴」の再現が行われました。(主催:大宰府万葉会、松尾セイ子代表) コロナ禍のため規模を縮小して開催されましたが、楠田市長をはじめ参加者は華やかな万葉衣装を身にまとい、1300年前の大宰府に思いをはせながら朗唱を行いました。

また、大宰府万葉会の活動のご縁から東京2020オリンピックの聖火ランナーを務めた山本裕子さんも参加され、聖火と梅花がコラボレーションした歌会となるとともに、実際に使用した聖火リレートーチが大宰府万葉会の25周年に花を添えました。



「梅花の宴」式典と朗唱の様子

学校法人との連携 学生広報編集部の皆さんが楠田市長にインタビュー

2月18日(金)日本経済大学の学生広報編集部の皆さんが市役所を訪問し、楠田市長にインタビューを行いました。これは、広報や情報発信に興味がある有志の学生が集まり、取材・編集を通して大学や地域の魅力を発信しようと、本年1月から活動を始めたもので、この日は記念すべき最初の取材活動となりました。

今回はコロナ禍のなか「地方移住」や「留学生支援」をテーマに、本市の取り組みや今後のまちづくりについてさまざまな質問がありました。インタビューの内容については、後日、同大学のホームページに掲載される予定です。



楠田市長にインタビューする学生の皆さん

私のだざいふ

西日本鉄道(株) 代表取締役社長執行役員

はやしだ こういち
林田 浩一さん



太宰府市は当社において非常に重要な拠点であり、これまで、観光・交通・まちづくりなどの側面から幅広い取り組みを展開してきたところです。

更に、2020年9月の包括連携協定を締結以降、昨年度から人事交流を開始するなど、これまで以上に連携・協力体制を強化しております。こうした官民対話の機会を増やし、社会課題の解決に向けた体制づくりの推進は、より一層重要な視点だと感じています。

また、交通拠点の魅力向上、駅活性化の検討、観光地域経済の振興、古民家宿泊事業、観光列車など、さまざまな要素を組み合わせることで、相乗効果を生み出す土壌があるのは太宰府ならではの強みだと感じます。

私個人としても、梅の花が咲くころにはたびたび太宰府へ足を運んでいまして、ほっとする一息を過ごさせていただいています。

今後、より一層の連携強化のもと、太宰府市の持続的な発展とより良いまちづくりに貢献してまいります。

市政ニュース

非核・平和宣言都市として

ロシアへの抗議とウクライナへの支援



ロシアへの抗議文と市役所設置の募金箱

ロシアによるウクライナへの侵略について、本市は令和4年3月2日付でプーチン大統領宛て抗議文をロシア大使館に送付しました。

現在、太宰府市役所1階に募金箱を設置し、人道支援の救援金を受け付けています。受け付けた救援金は、日本赤十字社を通じて届けます。

学校法人などとの連携強化 太宰府高等学校と包括連携協定を締結

福岡県立太宰府高等学校と2月18日(金)、包括連携協定を締結しました。この協定は、まちづくりビジョンにも則ったもので、本市における人的交流や協働の取り組みを通じて、地域の活性化や将来の地域社会を担い、世界に羽ばたく人材育成を目的としたものです。

早速に、本協定初の連携事業として、2月24日(木)「東京2020パラリンピック道下美里選手応援プロジェクト講演会」の様子が市立中学校4校などにリモート配信され、参加した生徒たちは、道下選手の目標に向けた取り組みなどの話に耳を傾けました。

今後は、他校ともさらなる連携を図るなどして、市全体での地域社会を担い、世界に羽ばたく人材育成に向けたまちづくりに取り組みます。

講演会の様子(太宰府高等学校会場(左)から配信された画像を見る太宰府中学校の生徒(右))



Contents

目次
2022年4月1日号

特集

私のだざいふ、市政ニュース、トピックス 2~3

施政方針 4~11

太宰府市・扶餘郡姉妹都市提携10周年! 12~13

保健センター事業のお知らせ 14~15

新型コロナウイルスワクチンの接種について 16

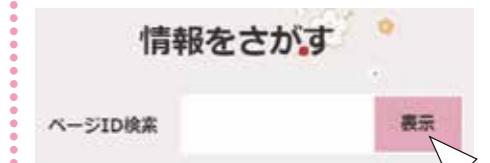
市からのお知らせ 17~26

連載 27~33

なんでも情報コーナー 34~43

太宰府の文化財 44

記事ページをホームページで検索!



広報だざいふの記事にある最大7ケタのページIDを太宰府市ホームページトップの検索画面に入力すると、同じコンテンツの記事ページをさがすことができます。